

マテリアルライフ学会が来所、「船底防汚塗料」聴講

マテリアルライフ学会（事務局＝東京・日本橋茅場町）の会員 18 名が 2012 年 10 月 17 日、当研究所を訪れ、船底防汚塗料に関する千田哲也・研究統括主幹の講義を聴講しました。また、この後、キャビテーション大型水槽などの研究施設を見学しました。

マテリアルライフ学会の前身、耐久材料研究会が設立されたのは 1987 年。「有機、無機、金属からなる素材およびそれらを加工して得られる各種材料と構成物・製品並びにバイオマテリアル、古文化財などの耐久性、寿命予測と制御についての科学および技術の進歩を図ること」が同学会の目的と

なっています。

講義では、千田主幹が船体付着生物の影響（性能低下、船体損傷、生態系の攪乱）から防汚塗料の歴史、防汚物質の環境リスク評価手法と ISO 化、省エネのための低摩擦塗料の開発状況などを説明しました。講演後は活発な質疑応答が行われ、予定時間を超えるほどでした。その後、参加者全員がキャビテーション大型水槽、深海水槽ならびに高圧タンク、電子顕微鏡などの研究施設を見学。参加者からは「防汚塗料に関する貴重な話が聞けて大変勉強になりました」との感想をいただきました。



千田主幹の講義風景



電子顕微鏡室

マリンエンジニアリング学会が研修と施設見学

公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会の会員が 2012 年 10 月 19 日、当研究所を訪れて実海域再現水槽などの施設を見学するとともに、春海一佳・動力システム系長による省エネ・環境対策技術に関するレクチャーを聴講しました。

同日来所したのは 8 名。海技研の紹介ビデオを見たあと、実海域再現水槽を皮切りにエンジン設備、深海水槽、高圧タンク、操船リスクシミュレータの各施設を見学しました。

見学会を終えた後は休憩を挟んで春海系長が本館 1 階 A 会議室で船用機関システムをめぐる環境問題について講義を行いました。春海系長は船舶の運航に起因する環境問題を説明したあと、大気汚染防止のための NO_x 排出低減技術や省エネのための排熱回収技術やハイブリッド化技術などについて、海技研の研究成果を踏まえて紹介しました。聴講した参加者との間で活発な質疑応答も行われ、有意義な時間となりました。



春海系長の講義風景



10号館実験棟で